

休校の影響もあり、「勉強しなさい」とつい言いたくなりますが、言うとお計に反発して勉強しなくなるし、かといって言わないとずっと勉強してくれない…。「このままで大丈夫?」と、子どもの成績について不安を抱えている人も多いのでは。

「個別指導キャンパス」では長年にわたる教育現場で培ったノウハウを生かし、子どものモチベーションを高めて成績アップ・志望校合格に導いています。代表の福盛訓之さんに、子どものモチベーションが上がる接し方をお聞きしました。

子どもとの接し方



個別指導キャンパス 代表・福盛訓之さん

お問い合わせ先: (0120) 934830

「生徒一人一人に合わせたオーダーメイドカリキュラムを作成し、集中的に強化します」と話す福盛代表

「個別指導キャンパスでは、指導する時にどのようなことを意識して、生徒と接していますか?」

お子さまのモチベーションを高め、やる気にさせることを大事にしています。(子どもの)小さな成長に講師が気づき、褒めて伸ばします。こうした指導力と生徒のやる気が成績アップを実現させています。

「家庭では、どのように褒めれば良いのでしょうか?」

「集中して机に向かっていた」「家で勉強する習慣がついてきた」「友だちのことや塾のことを自分から話して

くれるようになった」と些細なことでもそんな変化があった時は、まずは褒めることを意識してください。

特に勉強が苦手なお子さまは、自信を持っていないことが多いので、親が子どもの成長を喜ぶことが一つの成功体験になります。そうすることで、(子どもは)さらに頑張ろうと思えるのです。

「わが子のことを思うあまり、つい厳しく評価してしまっている。どのように心がけると良いのでしょうか?」

確かに、親はなかなかわが子の成果を認めず、「アラ探し」をして厳しい評価を

してしまう傾向にあるようです。例えば、1教科だけ下がってほかの教科はそうでなくても、親の評価は「下がった」もしくは、良くても「トントントン」ということがあります。全教科をパーフェクトに上げない限り認めてもらえないのは、頑張っている子どもにとってつらいことです。ついついわが子には思い込みが強くなりがちなのです。

あえて客観的に見つめ、良い部分も見つけてあげて「積極的に褒める」ということを心がけると良いです。親から認められることは子どものモチベーションには不可欠だと考えています。